

# 地域密着型サービス事業者 自己評価表

( 認知症対応型共同生活介護事業所・小規模多機能型居宅介護事業所 )

事業者名	グループホームよろこびの家 住慶 福	評価実施年月日	平成19年12月7日
評価実施構成員氏名	水山 酒井 種田 砂原 高松 岩村 沼田 石村		
記録者氏名	水山	記録年月日	平成19年12月20日

北海道保健福祉部福祉局介護保険課

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	よるこびの家住慶として職員全員で話し合い決めた理念がある。	理念の変更・追加等がある場合は会議等できちんと話し合っている。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	朝礼時に職員全員で集まり、理念の確認・実践出来る様に取り組んでいる。また、業務中に職員同士で話し合い理念に沿った業務を行うように努めている。	これからも朝礼時に職員全員で集まり、理念の確認・共有し実現に向けて取り組んでいきたい。業務に励みながら、理念の実践を行って行きたい。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。	理念を建物内に誰でも見れるように掲示している。また、入居時や2ヶ月に1度開催する運営推進会議等でも議題にあげて説明してある。	ご家族や職員には理解されているが、地域の方への理解を深められるようにこれからも交流の場での、理念についての説明と話し合いを行いたい。
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	外出の際などに近隣への挨拶や日常会話等をしている。また、広報誌を定期的に作成し町内会の回覧板へ入れてもらっている。行事の際には近隣の方の参加もあり気軽に立ち寄ってもらえるように努めている。	行事だけの参加ではなく、普段からの付き合いを大切に、少しでも事業所の理解を深めてもらうように努めて行きたい。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	町内会や近隣での催し物に参加させてもらっている。また、ボランティア等を招いてのお付き合いを行っている。	今後も地域との交流が出来るように働きかけ、様々な交流がもてるように広報誌などに力を入れて頑張っていきたい。
6	事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	運営推進会議を定期的開催し、地域への福祉の還元を努めている。町会の福祉に関しての相談等に助言を行っている。	運営推進会議を通じて、地域に福祉の還元を行う機会を、協力し合い行っていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>		<p>定期的に自己評価の作成・外部評価の実施を行い、現在の状況把握と今後の業務への改善点を明確化し改善に取り組んでいる。</p> <p>評価された結果を活かして、管理者を中心に職員全員で改善に努めて行きたい。また、入居者や家族にも評価の意義を理解してもらえるように努めていく。</p>
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>		<p>2ヶ月に1度運営推進会議を行い、情報提供を行い地域・家族・関係各所の意見を取り組んでいる。</p> <p>会議で出された要望を聞くだけでなく、全員が要望に答えられるように取り組んで行きたい。</p>
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>		<p>生活保護受給者の方も居られるため、随時訪問がある際に話し合いを行っている。</p> <p>サービス担当者会議等にも参加され、サービスの質の向上に取り組んでいる。</p>
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>		<p>資格取得時や外部の研修会等で学んでいるが、現在は必要とされている方はいない。</p> <p>入居が長くなるにつれ、身元引受人の状況も変化することが見込まれるので、活用も視野に入れている。</p>
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>		<p>職員採用時に高齢者虐待防止についてオリエンテーションを行い、高齢者虐待防止の感想文の作成を行っている。</p> <p>身体拘束廃止委員会を設置して、身体拘束・様々な虐待等について話し合い、防止に努めている。</p>
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>		<p>入居又退居時には担当者より十分な説明を行いきちんと納得されるように努めている。</p> <p>きちんと契約に対して納得いただけるように、丁寧な説明を行っている。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	入居者からの要望があるときは、その都度対応を行っている。判断の難しいときは家族と相談行い対応している。また、苦情受付窓口を設けているため、随時職員全員での情報の共有と改善策の話し合いを行っている。		今後、もっと意見を反映できるように意見箱の設置を予定している。
14 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	電話連絡・毎月の請求書類の発送時にお知らせや広報誌を作成して送っている。また、面会時にも職員より報告を行っている。		健康状態については面会時他、定期的に報告を行っている。金銭の管理については、毎月の請求時に明細を送り、金銭の出し入れを詳細に伝えている。
15 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	苦情相談窓口を設置し、意見・苦情等を運営に反映させている。また、モニタリング・サービス担当者会議・運営推進会議等でも意見等を聞く機会を設けている。		今後、もっと意見を反映できるように意見箱の設置を予定している。
16 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	スタッフ会議等を定期的実施して意見を聞いている。		意見が出た際は全体管理者会議で話し合い、運営者へ反映出来るように努める。
17 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	スタッフ会議等で話し合いを行い、勤務の調整を行っている。		入居者が毎日の生活をゆったりと過ごせるように、きちんとした勤務が出来るように努めている。
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	職員と入居者がなじみの関係を築けるようにする為、職員の異動・離職を最低限に抑えている。		定期的な職員との面談を行い、職員の気持ちの把握に努めている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>研修係りを選出し、定期的に勉強会を実施している。また、外部での研修会にも積極的に参加し、職員の質の向上に努めている。</p>	<p>全員がそろって参加できることは難しいが、出来るだけ職員のやる気を大切にして、必要ならば勤務の調整等も行い職員の向上に努めている。</p>
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>グループホーム連絡協議会のブロックで親睦会や勉強会を行い交流する機会を設けている。</p>	<p>今後、出来るだけ意見の交換や交流の機会を持てるようにしていきたい。</p>
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>相談事がある場合は管理者へ相談出来るよう環境を作っている。また、職員同士で親睦会や交流会を行って取り組んでいる。</p>	<p>職員同士で言えない事やストレスの軽減の為、管理者が中心となり働きやすい工夫をしていきたい。</p>
22	<p>向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>契約更新時に人事考課を行い個々に合った指導を行い向上心を持ってもらうように努めている。</p>	<p>向上心を職員が持つことにより、更にサービスの質が上がると思うので、職員の向上心が上がるように管理者が中心となり、運営者へ働きかけていきたい。</p>
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>担当者が入所に至るまでに、十分にご本人との話し合いを行っている。</p>	<p>入居者の目線に合わせて、きちんとした信頼関係を作るように努めている。</p>
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>担当者が入所に至るまでに、十分にご家族との話し合いを行っている。</p>	<p>言いにくい事もあると思うので、親身に話を受け止めるように努めている。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	担当者がご本人とご家族と十分に話し合いを行い、その時必要とされる支援方法を決めている。		情報収集をきちんと行い、きちんと個々に合った支援方法を行うように努めている。
26 馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	入居される前からの段階での見学やパンフレットの配布等を行い、ご本人に考えてもらえるように努めている。		入居者の生活歴や習慣をきちんと知り、きちんとした対応を職員全員が出来るように努めている。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	一緒に生活することにより、支え合う関係を築いている。入居者から学ぶことは多いので、日々の生活の中で信頼関係を築いている。		一方の立場にならない様に、入社時のオリエンテーションできちんと管理者より説明を行っている。
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	面会時やサービス担当者会議時にご家族と話し合い、ご家族・ご本人共に親しみのある関係を築くように努めている。		家族でなければ知らないことや、家族でないと言えない事もあると思うので、きちんと家族とも情報の共有を行い共に支援できるような体制を築いている。
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	面会時にご家族とより良い関係を築けるように、情報提供を行っている。(例、日常生活等の情報)		行事等にご家族を呼び、入居者とのご一緒の時間を提供している。
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご家族のご協力のもと、ご本人が行きたい所へ行く支援が出来ている。		今後も継続して馴染みの関係を作っていけるような支援に努めていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	日常的に入居者同士が過ごし、交流を深めている場面がよく見られている。また家事の場面や日常生活においても入居者同士が声かけや誘導等の助け合う場面も見られる。		これからもこの関係を大切にし、より入居者同士の係わり合いの場面を作りたい。
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	長期入院により退居された入居者の所へ機会を見つけて見舞いに行ったり、お手紙を作成している。		退居 = 終了という関係を作らずに、いつまでも付き合いを大切にしたい。
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	その都度、その方に合った課題を明確にして、その人らしい生活が出来るように努めている。		モニタリングやケアカンファレンスそしてスタッフ会議等で話し合い検討している。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	生活暦を参考にしたケアを実施し、そのケアの中から、経験・出来事・思い出を聴き今後に生かすようにしている。		今後はもっとコミュニケーションを密にとり、生活暦にも書かれていない、情報の把握に職員全員で取り組んで行きたい。
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	「ちょうじゅ」という記録システムを使用し、日々の生活等の把握に努めている。		生活を知ることにより、何か些細なことでも発見できるようになると思うので、職員全員で個々の生活のリズムを把握できるように努めている。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	毎日の記録、ご家族からの情報を集めて状況把握すると共に、介護計画を作成する時はご本人、ご家族、主治医からの意見を求めて作成している。		本人、家族、関係者とこれからもきちんと話し合いを行い、反映された介護計画の作成に努めて行きたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	介護計画の見直しは必ず3ヶ月ごとに実施しており、また状態の急変時には随時アセスメントを行っている。		介護支援専門員を中心とした対応を行っている為、現状に合った計画を作成している。
38 個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	「ちょうじゅ」という記録システムを使用し、入居者の日々の変化や状態を具体的に記録している。そしてその中より介護計画の見直し・追加等を行い活かしている。		今後も更に情報を活かし、その方に合った介護計画を作成できるように努めたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	様々な状況の変化に対応するためにきちんと設計されている為、その方にあった支援が行えている。		ご本人・ご家族よりの要望の吸い上げを職員全員で取り組んでいきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	提携施設・近隣との協力体制を密に取れるように努めている。		地域の様々な機関との連携を図り、支援している。(例、学校・保育園・町内会・消防署等)
41 他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	現在はまだないが、今後訪問看護等とも協力しあうことも予想される。		今後、必要に応じて本人と話し合い支援するように努めていきたい。
42 地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	運営推進会議の出席や、見学者を連れての訪問等も行い協働している。		包括支援の役割を知ってもらい、様々な事に対して協力体制を築いていきたい。



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	母体の施設より医療連携をとり、健康管理を行ってもらい指示を受けている。		今後、より一層医療連携看護師との連携が必要となっていくため、互いに協力していきたい。
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	母体の医療機関に認知症ケア専門士の資格を持つ医師がおり、必要に応じて助言・指示を受けれる体制を確保されている。		他の医療機関へ通っている方の対応もきちんと出来るように、支援していきたい。
45 看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	週に1度医療連携看護師による健康管理を行い、支援している。		24時間いつでも看護師への連絡が可能なので、早急な対応でも可能である。
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院時には当ホーム相談員と入院先の医師やソーシャルワーカーとの話し合いをしており、連携を取り合っている。		早期退院を目指し、入院先の医療機関との連携を行って行きたい。また、入居者の面会等も行い精神的な支援も行えるように努めていきたい。
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	重度化した場合や終末期のあり方について看取りの方針がある。		これからは症状の重度化や終末期の対応も必要となるため、きちんと職員全員で対応していきたい。
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	現在は行っていないが、今後の変化に対しては主治医・医療連携看護師等との連携を行い、準備等を行っている。		これからは症状の重度化や終末期の対応も必要となるため、きちんと職員全員で対応していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>49 住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>移動の際には事前の見学を行い、情報の収集に努める。</p>		<p>担当者が中心となり住替えによるダメージを最低限に防ぐように努めている。</p>
<p>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
<p>50 プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>言葉使いや個人情報の取り扱いには、最善の注意を払い取り扱っている。理念に基づき入居者個人の気持ちを考慮した声かけ対応を行っている。</p>		<p>業務にあたって入居者の立場になった対応を行えるように職員同士きちんと協力し合って対応している。</p>
<p>51 利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>こちらで決して決めずにご本人の意思や希望を考慮した支援を行っている。</p>		<p>入居者の思い出等を引き出すように努め、自己決定が出来るように支援している。</p>
<p>52 日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>日頃より入居者の自己決定を尊重し、自由に本人のペースでの暮らしを支えている。</p>		<p>業務優先の考えを止め、入居者のケアを行うように職員同士話し合っている。</p>
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>53 身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>本人の今までの生活歴を考えて、その人らしい服装や身だしなみを行えるように支援し、また季節感のある服装や髪型にもおしゃれが出来るようにも支援している。</p>		<p>訪問理美容や馴染みの美容院にも職員が付き合い同行している。今後はより本人の希望を考慮し外出する機会を増やしたい。</p>
<p>54 食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>給食係りを決めて積極的に、入居者の好みに合わせた献立作りに努めている。食事も楽しく食事が出来るように環境作りに勤めている。食事の準備や後片付けも職員と入居者が共に行えるようにしている。</p>		<p>今後も本人の病状等も考慮しつつ、食事を楽しめるように支援していきたい。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	外出や買い物の機会を作って、日常生活の支援を行っている。また、訪問販売を利用し、買い物ができるように支援している。お酒やタバコを吸う入居者はいないが、喫煙される際は他者に迷惑がかからないように配慮し行うようにする。		主治医や看護師との協力をを行い、希望している入居者には対応出来るように努めていきたい。
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	記録を参考に一人ひとりの排泄パターンを把握し、ケアプランに沿った支援をしている。		ケアプランに沿ったケアを行い、少しでも自立に迎えるような、援助をしていきたい。
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	時間や回数を気にせず、入居者の希望に合わせた、入浴の支援を行っている。		入浴の回数の少ない方への入浴のお誘いや、気兼ねなく入浴できる環境作りに努めたい。
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	常に入居者の身体状況を把握し、無理のかからない生活を送れる様、心がけを行い、日々の記録を参考に一人ひとりの睡眠パターンを把握し支援している。		生活リズムを考慮した声かけや眠りの少ない方へのお昼寝の声かけ等に努めたい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	個々に合った役割作りを行い、活躍の場を作ることで、本人に自信を持って生活できるようにしている。		頼む際の言葉がけ。終わった後の感謝の言葉を忘れずに実施している。
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	出来るだけ本人に金銭を管理してもらい、買い物等を行っている。		出来るだけ本人にお金を渡して使用してもらい、お金への理解を忘れないようにしてもらう。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	入居者の自己決定の権利を大切に、外出してもらっている。		外出の声かけを行い、出来るだけ希望通りの支援に努めたい。
62 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	ご家族のご協力のもと、本人の希望する場所へいけている。また、行事等でも外出する機会を増やしている。		入居者とお話の中から、希望を引き出している。
63 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	公衆電話をホーム内に設置して利用したり、ホームの近くにポストがあるため、手紙を投函に行ったり、携帯電話(本人持ち)を使用したりしている。		希望に応じて家族や友人との連絡が出来るように支援していく。
64 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	家族や馴染みの人の訪問は自由に出来る環境にしている。		ある程度の環境作りは出来ているので、今後は家族等からの意見も引き出し工夫していきたい。
(4)安心と安全を支える支援			
65 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束廃止委員会を設置しており、職員全員が理解できるようにしている。		定期的に勉強会を開催し常に意識して業務が出来るようにしている。また、少しでも疑問があるときは職員同士での確認や管理者への質問が出来るようにしてある。
66 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	居室に鍵をかけることは無い。玄関は防犯の為、夜間は施錠しているが、日中は鍵をかけずに出入りできるようにしている。		出来るだけ見守りのみで出来るように努めている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	日中は職員同士が連携をとり、把握に努めている。また、夜間はプライバシーを考慮し、2時間ごとの見守りを行い把握に努めている。		職員同士の連携の向上に努めていきたい。
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	一人ひとりの状況を見て、物品の配置を行い危険を防いでいる。		職員がそのときの状況に合わせて行動している。
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	事故防止委員会を設置しており、事故に対して話し合いを行い、事故の防止に努めている。		研修係を設置して勉強会を定期的に行い、勉強を行っている。
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	緊急時のマニュアルを作成して、職員への熟知を心がけている。		研修係を設置して勉強会を定期的に行い、勉強を行っている。また、消防で実施している講習も参加して勉強している。
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	年に2度、消防所立会いの避難・誘導訓練を実施している。		防火管理者の資格を持つものがいるので、防火管理者中心に勉強会を開き、避難方法等の勉強を行っている。
72 リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	担当者より十分に説明を行っている。		家族との話し合いも大切だが、初めに十分に職員全員で話し合いを行っている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。</p>	<p>医療連携を取っているため、緊急時には担当の看護師より指示をもらえるようにしている。</p>	<p>24時間いつでも看護師への連絡が可能なので、早急な対応でも可能である。</p>
74	<p>服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>処方箋を職員全員で確認することにより、職員全員で薬の理解を行えるようにしている。</p>	<p>薬の変更時には、きちんと情報交換を行っている。また、わからない点も医療連携の看護師に聞くことも出来る。</p>
75	<p>便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。</p>	<p>十分に水分の摂取を行ってもらっている。便秘気味の場合には、牛乳やヨーグルト等を提供することにより対応している。</p>	<p>運動は状況を見て、声かけを行い運動を行っている。</p>
76	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。</p>	<p>起床時・就寝時に口腔内の清潔を支援している。出来るだけ本人に口腔内の清潔に取り組んでもらうように本人にも手伝ってもらっている。また、何か異常がある場合は、訪問歯科を行い対応している。</p>	<p>毎食後、行っていない方へも声かけを行い、清潔の保持に取り組んでいる。</p>
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>食事量・水分量については必ず記録に残している。個々に合わせてお粥やキザミ食、糖尿病の方への調整等を行っている。</p>	<p>職員で献立を作っている。その際に各種調理本より情報を引き出し健康に良い食事と個々の嗜好に合わせた献立を立てられるように工夫している。</p>
78	<p>感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>	<p>感染症に対してマニュアルがあり、理解を深めるように実施している。</p>	<p>今後も感染症に対しての知識を深めていくことが大切である。その為に職員一人ひとりがきちんと意識して実行している。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	<p>食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	毎日必ず調理場・調理器具の洗浄・消毒を行い衛生環境の保持に努めている。食材は週3回業者より配達されているため、新鮮で安全な食材を使用している。		季節に応じての消毒・清潔に努めている。また、調理の際には必ず検食を行い何かあった際の対応も行っている。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	玄関周りに植物を置き、季節に応じた物を置き、雰囲気作りに配慮している。		今後も様々な工夫を行い、圧迫させない環境作りに努めたい。
81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	テレビ・テーブル等の配置を工夫し、季節を感じてもらえるような植物の配置や飾り付けを行っている。また、入居者同士と一緒に過ごせるようにソファの配置を工夫している。		今後更に家庭的な環境作りを工夫して、入居者が住みやすく、季節を感じることが出来るように努めたい。
82	<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	玄関・ホール・多目的室等の場所があり、居室以外にも入居者が思い思いの場所で過ごせるようになっている。		食事の際の配置の工夫、状況に合わせた空間作りに努めている。
83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	居室には使い慣れた生活用品を配置してもらい、居心地良く過ごせるように工夫している。		今後も本人や家族と話し合いを行い、取組んで行きたい。
84	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気の様子がないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	入居者と話し合い換気を行っている。冷暖房完備なので、季節に応じて正しく調整を行っている。		定期的な空気の入替え、夏季・冬季の温度調整に常に注意していききたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>廊下・浴室・トイレ等には手すりが配置されており、ホーム内は全てバリアフリーになっている。</p>	<p>これからも入居者の生活を見て、より安全な環境を作れるように努める。</p>
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>個々に合わせた支援を行い、決して本人を不安にさせないように援助していく。</p>	<p>日々、入居者を見て、そのときに合った、環境作りに努めたい。</p>
87	<p>建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>庭が整備されており、植物や家庭菜園がある。また、庭でバーベキューや日向ぼっこを行い活かしている。</p>	<p>天気の良いときには、洗濯干しをベランダで行っている。</p>



. サービスの成果に関する項目			
項目		取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんど掴んでいない	入居者がグループホームに来る前の生活暦や習慣を維持できるように考えている。また、個々に合わせて対応する事により、その人らしい生き方と楽しみを見つけれるように支援して行く。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない	業務の中で時間を見つけてゆったりと生活を行っている。おやつの時間・買物・ドライブなども行い時間を過ごしている。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない	個々の時間を持っており、毎日時間にとられることなく好きな時間を暮らしている。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない	利用者が職員と共に生活を行い、個々に合った支援方法を行うことにより毎日を笑顔で過ごされている。
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない	入居者の希望に沿った外出の支援が出来るように、職員全員で気を配っている。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない	週1回の医療連携の体制が確立されており、体調の変化がおこった場合も、24時間看護師との連絡体制も出来ている。
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない	入居者の要望に合わせた対応を行い、安心した毎日を送ってもらっている。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族 家族の2 / 3くらい 家族の1 / 3くらい ほとんどできていない	面会時に家族との会話の中で、訴えを聞き解決策を話し合っている。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない	訪ねてくれている間隔はそれぞれあるが、見学や面会等により馴染みの方が増えてきている。

. サービスの成果に関する項目			
項目		取り組みの成果	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない	毎回きちんと全員参加するのは困難だが、理解者や応援者が増えてきている。
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない	職員は毎日を楽しみ、理念に基づいて仕事を行っている。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	満足してくれているが、これからも個々に合ったサービスを行って行きたい。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどいない	面会時や担当者会議等で家族より要望等を聞き入れているので、満足されている。これからも全ての家族に満足していただけるように努めて行きたい。
【特に力を入れている点・アピールしたい点】  (日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)			入居者がグループホームでの生活を、毎日お変わりなく過ごされるように職員全員で取り組んでいる。これからの毎日が入居者にとって良い思い出になる様にしていきたい。又、当事業所以外にも提携のグループホームがあるため、互いに意見交換を行いサービスの質の向上と改善に努めている。

# 地域密着型サービス事業者 自己評価表

( 認知症対応型共同生活介護事業所・小規模多機能型居宅介護事業所 )

事業者名	グループホームよろこびの家 住慶 寿	評価実施年月日	平成19年 12月7日
評価実施構成員氏名	伊藤 佐藤 安澤 井川 上木 米谷 影山 寺田		
記録者氏名	伊藤	記録年月日	平成19年 12月20日

北海道保健福祉部福祉局介護保険課

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	平成18年度に職員全員にアンケートを行い、利用者のケアに対する思いや希望を取りまとめて、現在の理念を構築した。		理念の変更・追加などがある場合は、全体会議などで話し合いを行っている。
2 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	日々の生活の中で、常に職員らの目に付くところに理念を掲示し、理念に沿ったケアの実践を心がけている。		朝礼にて唱和を行ったり、確認する事で理念に対する理解を深め、実現に向けて業務に励んでいる。
3 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	家族に対しては入居の際の説明時に理念について話し、理解していただくよう努めている。また地域に関しては、隔月に行われている運営推進会議や、当ホームにて発行している広報誌を利用して、町会や地域包括センターなどに配布し、広く知っていただくよう取り組んでいる。		地域の方に理解を深めてもらうために、行事などの交流の場で理念について説明などを行っていききたいと考えている。
2. 地域との支えあい			
4 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	行事ごとに参加していただくように、町会や近隣に広報誌や声掛けなどを行い、また、こちらから町会の行事に参加させていただいたりして交流を深めている。		町会の集まりや、近隣住民との行事以外でのコミュニケーションを密にして行きたいと考えている。
5 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	地域の学校の行事や、町内の催し物などに参加している。また、ボランティア等を招いて交流の機会を設けている。		今後も地域との交流が持てるように、広報誌などを利用して働きかけていきたい。
6 事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	運営推進会議を隔月で行っており、町会の代表者を通じて地域の高齢者の様子などを伺っており、何かあったときの相談窓口として利用してもらうように働きかけている。		地域の方に理解を深めてもらうために、行事などの交流の場で理念について説明などを行っていききたいと考えている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	定期的に自己評価の作成・外部評価の実施を行い、現在の状況の把握と今後の業務の改善点を明確化し、改善に取り組んでいる。		評価された結果を活かして、今後の業務改善に取り組んでいる。
8 運営推進介護を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議に出席された家族や、地域住民、包括支援センターの職員から出た意見や要望を活かしたサービスの提供を行うよう努めている。		会議後は議事録等を作成し、全職員が目を通して会議で出た意見や要望を把握して応えられるように努力している。
9 市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	生活保護受給者が居られるため、サービス担当者会議の参加や生活訪問などを通して意見交換を行っている。		現在は左記の訪問時に話し合い等が行われていないので、今後はそれ以外でも意見交換の機会を持てるよう、調整を図っていく。
10 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	資格取得時や外部での研修会等で学んでいるが、該当者がいないため、支援は行っていない。		今後必要となるかもしれないことも視野に入れて、常に情報を取り入れている。
11 虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがない要注意を払い、防止に努めている。	身体拘束廃止委員会を設置しており、その関連で高齢者の虐待についても一緒に検討し、事例検討や新規採用者への入社時のオリエンテーションでの説明、虐待についてのレポート提出を行って、防止・早期発見に努めている。		今後も勉強会や委員会を通して、全員で虐待防止の意識を継続していけるように取り組んでいきたい。
4. 理念を実践するための体制			
12 契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居窓口担当者がその都度十分な説明を行っており、了承を得ている。		担当者だけでなく、その他の職員も疑問点などに答えられる様に、利用料金等の説明が行えるように努めている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>13 運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>苦情処理相談窓口を設けており、管理者や職員が受けた苦情を担当者へ報告し、苦情処理簿を作成して速やかに対応するよう努めている。</p>		<p>更なる意見反映の為、意見箱の設置を予定している。</p>
<p>14 家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。</p>	<p>面会時に近況を報告したり、請求書の発送時に広報誌やお知らせ等を同封して報告を行っている。また、面会の機会が少ない家族には、電話報告なども行っている。</p>		<p>その他健康状態などで変わったことなども、その都度報告している。</p>
<p>15 運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>苦情処理相談窓口を設けており、管理者や職員が受けた苦情を担当者へ報告し、苦情処理簿を作成して速やかに対応するよう努めている。</p>		<p>更なる意見反映の為、意見箱の設置を予定している。</p>
<p>16 運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>スタッフ会議を定期的に行い、そこで職員からの意見を吸い上げている。</p>		<p>意見が出た際は、全体の管理者会議で話し合い、運営者へ反映してもらえよう努めている。</p>
<p>17 柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。</p>	<p>その都度臨機応変な対応ができるように、管理者と職員で話し合い、調整に努めている。</p>		<p>利用者の生活のペースに合わせた支援ができるように、管理者は調整に努めている。</p>
<p>18 職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>	<p>職員と利用者が馴染みの関係を築けるように、運営者や管理者は、極力異動や離職防止に努めている。</p>		<p>管理者は具体的に職員への定期的な面談や、業務に関する要望などを吸い上げて、離職防止等に努めている。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>研修係りを各ユニットから選出して、職員が学びたいことを中心に勉強会を行ったり、外部の研修会にも積極的に参加するよう働きかけ、研修に参加した際は、発表の場を設けるなどして、情報の共有を図り、質の向上に努めている。</p>	<p>勤務の都合上、全員が参加することが難しいが、勤務調整などを行って、参加したい職員を優先にし、また参加できなかった職員には、報告書を読んでもらうなどして、情報の共有化を図っている。</p>
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>グループホーム連絡協議会の各ブロックごとの親睦会や、勉強会に参加している。</p>	<p>今後は他のグループホーム訪問・見学などを企画し、お互いを気軽に引き来できるような環境作りを目指しており、ブロック会議内でも今後の議題として検討が行われている。</p>
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>法人での行事(納涼会や忘年会など)のほかに、ホーム内で職員同士の親睦会を開いたり、管理者が職員に対して定期的に面談を行って、職員の悩みなどを聞く機会を設けるなどしている。</p>	<p>今後も継続し、少しでもストレスを感じず働きやすい環境作りに管理者は努めている。</p>
22	<p>向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>契約更新時に人事考課を行い、個々に対して指導・評価をし、向上心を持ってもらうよう努めている。</p>	<p>左記評価を行う事で、職員に対して向上心をもってもらうように努める。</p>
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>入居窓口担当者が入居されるまで利用者のところへ足を運び、生活歴やパターン、どのような家具の配置をしているかなどを本人と一緒に検討し、入居までスムーズに行えるように配慮している。</p>	<p>利用者の入居に対する不安や心配事などを一緒に解決し、信頼関係を構築できるよう心がけている。</p>
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>入居窓口担当者が利用者についてのご家族の思いや、困っていることをお聞きして、一緒に検討しながら解決して行く姿勢を心がけている。</p>	<p>入居前後にに関する事項を十分説明し、スムーズな入居が出来るように努めている。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	担当者が利用者に関する情報を的確に判断し、その方に合った支援方法を検討して提供できるように努めている。		担当者は利用者に関して正確な情報収集を行い、その方に合った支援方法を提供できるように努めている。
26 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	あくまでも利用者の生活の 패턴に合わせたケアの提供を行い、その中で職員や他の利用者との馴染みの関係を構築できるよう配慮している。		事前に家族から生活パターンや、習慣等の情報を把握し、全職員が対応できるよう心がけている。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	利用者の人間性やその人の生活を尊重し、職員は利用者から学ぶ姿勢を大事にして、生活を共にし一緒に支えあう関係を築けるよう心がけている。		一方の立場にならないように、入社時のオリエンテーションで利用者に対する関わり方の指導を行っている。
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	職員は家族とも密な情報交換を行い、その中で利用者に対してできることを一緒に検討し、行事やサービス担当者会議の参加等を通して、関係を構築していけるよう努めている。		行事やサービス担当者会議への参加を促し、利用者と一緒に時間を共有できるよう配慮している。
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるよう支援している。	職員は家族と利用者のコミュニケーションが取りやすいように、日常生活の情報の開示を行っている。		行事等を通じてご家族との時間を共有できるように心がけている。
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	入居前に通われていた病院や、床屋・美容室などに引き続き通えるよう、支援体制が整っている。		外出・外泊は自由であり、家族や友人等の面会時間も特に制限は設けていない。



項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	いつでも誰かが共有の場所で過ごしており、その中で利用者同士が自由に交流を深めている。また、家事作業などで利用者同士が声掛けしあい、助け合う場面も見受けられる。		今後も円滑なコミュニケーションを取れるように、職員が配慮し、利用者同士が気持ちよく過ごせる空間作りを行う様心がける。
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	長期入院や他施設への転居のあとも、利用者やそのご家族へ面会に行ったり、お手紙を作成したりして交流している。		転居されたあとも、そのご家族が遊びに来られたり、近況報告のお電話をくださったりと交流があるので、今後も継続して行っていきたい。
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者の意向や希望に沿った生活ができるように、職員は本人の意思を引き出すよう心がけている。困難な場合は、生活パターンを把握して、本人が何をしたいのかを観察し、その都度利用者にあったケアの提供ができるよう努めている。		あくまでも無理強いをして聞きだしたりするのではなく、本人が自然に希望を言えるような環境作りを心がけている。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居窓口担当者が家族や本人から聞きえた情報を元にフェイスシートを作成し、それを参考にしている。また、それだけでは把握しきれない部分をその都度記録し、より正確な情報を共有できるように努めている。		職員同士で情報の交換を常に行い、それを参考にしてケアの質の向上に努めている。
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	『ちょうじゅ』という記録システムを利用して、個々の1日の生活記録を入力し、生活全般の把握に努めている。		生活全般の把握に努めて、今後のケアの向上につながるよう意識している。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	定期的なカンファレンスや、毎日の記録などからその方に合った課題を明確にしてアセスメントを行い、利用者や家族の要望を取り入れた介護計画書を作成している。		今後も利用者の生活歴等を考慮し、課題分析を明確化して、本人の生活に合わせた計画書を作成できるように努めていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	計画書の見直しは3ヵ月ごとに実施しており、急変時やそのほかで状態が変わったときなど、その都度家族と話し合い、状況に応じて計画書の追記などを行っている。		計画作成担当者を中心に、利用者担当職員らと協力して、介護計画書の見直しを図り、家族にも了承を得ている。
38 個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	『ちょうじゅ』という記録システムを利用して、ケアの実践の有無や結果、その日の状態などを入力している。定期のカンファレンスにて、その記録を使用し、ケアについて達成されているか、利用者にとって必要なケアなのかを検討する材料に活かしている。		今後もケア記録を活用し、介護計画書の見直しを図っていきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	様々な状況の変化に対応するために設計するため、その方にあった支援が行われている。		利用者とそのご家族よりの要望の吸い上げを職員全員で取り組んでいきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	提携施設・近隣との協力体制を確立するように努めている。広報誌を回覧板に添付してもらうことにより、理解を広げる働きかけを行っている。		定期的に地域の様々な機関との連携を図り、開かれたグループホームを目指して情報開示を積極的に行っている。
41 他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	現在、入居されている方で利用している方がいない。今後訪問看護等の利用を行う可能性はある。		他機関との連携を今後も継続して行い、活用時にはすみやかに対応できるよう支援体制を整えている。
42 地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	運営推進会議時や、見学者との訪問等を行い協働している。		包括支援の役割を知ってもらい、様々な事に対する協力体制を構築していくよう努めている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>43 かかりつけ医の受診支援</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p>	<p>母体の医療機関と医療連携を図っており、週に1度健康管理を行ってもらい、利用者の体調の変化などに助言等をもらっている。</p>		<p>急変時などの対応等を迅速に行っていただいている。</p>
<p>44 認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。</p>	<p>母体の医療機関に認知症ケア専門士の資格を持つ医師があり、必要に応じて助言・指示を受けられる体制が確保されている。</p>		<p>他の医療機関が主治医の利用者に関しても同様の支援体制が整っている。</p>
<p>45 看護職との協働</p> <p>事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p>	<p>母体の医療機関と医療連携を図っており、週に1度健康管理を行ってもらい、利用者の体調の変化などに助言等をもらっている。</p>		<p>24時間いつでも担当看護師への連絡が可能なので、急変時でも迅速な対応が可能である。</p>
<p>46 早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。</p>	<p>入院時は管理者や介護支援専門員と、入院先のソーシャルワーカーと連携をとり、退院後もすみやかにホームの生活に戻っていただけるよう協力体制がなされるよう努めている。</p>		<p>早期退院を目指し入院先の医療機関と連携をとり、入院中の面会も含め、利用者とその家族の精神的なケアも行えるように配慮している。</p>
<p>47 重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。</p>	<p>重度化した場合や終末期のあり方についての看取り指針がある。</p>		<p>先のための今後の対応の仕方や、ケアのあり方などを職員全員が熟知し、いつでも対応していける体制作りを行っている。</p>
<p>48 重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>	<p>現在は該当者がいないため、今後の変化に対しては、主治医と医療連携看護師との連携を密に行い、検討及び準備できる体制作りを行っている。</p>		<p>先のための今後の対応の仕方や、ケアのあり方などを職員全員が熟知し、いつでも対応していける体制作りを行っている。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>49 住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>利用者と家族の希望を優先し、転居先の関係者と十分に連携を取り、個々での生活と変わりなく過ごされるよう情報開示を行っている。</p>		<p>住替えによるダメージやトラブルを最小限にするため、担当者と連絡を密に取り、本人の負担にならない様な配慮を行っている。</p>
<p>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
<p>50 プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>理念に基づき、一人ひとりを尊重しており、言葉遣いや個人情報の取り扱いについては最善の注意を払っている。</p>		<p>職員は業務にあたって利用者の立場になった対応を行えるように、職員同士で協力し合い、対応している。</p>
<p>51 利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>利用者の希望にあわせ、時にはこちらから声がけを行いながら、散歩や買い物等の意思決定に従って、行動を共にしている。</p>		<p>あくまでも利用者の思いや希望を考慮し、自己決定がなされるように支援している。</p>
<p>52 日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>食事や入浴など、大まかな時間の設定はしているが、基本的に自由に個々の利用者の生活パターンに合わせて支援している。</p>		<p>業務優先ではなく、利用者のケアを行うように職員同士で話し合い、その都度対応している。</p>
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>53 身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>本人の今までの生活暦を考慮して、その人らしい服装や身だしなみを行えるように支援している。また、馴染みの理美容店を利用できるように、支援を行っている。</p>		<p>今後も継続して支援していけるように、勤務調整など行っていく。</p>
<p>54 食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>献立は利用者の希望を取り入れ、調理の得意な利用者が食材切りを行ったり、食器拭きを行ったりしている。</p>		<p>給食係りを中心に、今後も利用者の意見を取り入れて、季節感や雰囲気を楽しめる食事の提供を行っていきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	特に主治医等から制限を受けていない限りは、自由に楽しんでいただけるように努めているが、喫煙をされる方のみ、喫煙場所と時間を設定して、火気の管理のご協力をお願いしている。		今後も利用者が自由に楽しめる体制を継続して行きたい。
56 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	記録を参考に一人一人の排泄パターンを把握し、時間や利用者の状況に応じた誘導・声掛けを支援している。		ケアプランにも取り入れており、一人一人に合った支援方法を検討し、実践している。
57 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	時間や回数を気にせず利用者の希望に対応できるように、勤務時間を設定している。		早朝や夕方など、好きな時間に入浴できるよう支援体制が整っている。
58 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	利用者の睡眠パターンを把握し、必要であれば昼寝を勧めたり、不眠を訴えられる利用者がある場合は、主治医と相談して、快適に安眠していただけるよう配慮している。		生活リズムを考慮した声掛けや、眠りの浅い方への配慮を継続して行いたい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	個々に合った役割作りや、趣味を生かした環境作りに努めており、利用者がイキイキとした生活が送れるよう支援している。		家事作業のお手伝いをお願いする時の声掛けや、他階の利用者との趣味の共有など、利用者の意思で継続できる環境作りを心がけている。
60 お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	自身で管理できる方には、必要最低限の金銭を自身で管理していただいている。買物や外出の際は職員が同行して、不安な部分のお手伝いを行っている。管理の難しい方に関しては、預かり金として管理者がお預かりし、その都度対応している。		不安な部分は職員が出来る限り付き添って行き、管理が難しい方に関しては今後も同様の方法で支援を行っていく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	利用者の希望に沿って、いつでも外出が出来る体制が整っている。		他の利用者の通院介助などが重なっている場合など除いては、自由に外出できるよう心がけている。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	行事などで企画をし、函館牛乳工場見学や、四季の杜散策など行っている。また、事前に家族へお手紙などでお知らせし、出来る限り参加していただくようにしている。		普段の会話等から、利用者に行ってみたい所を吸い上げ、行事係りが検討して外出出来るようにしている。
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	公衆電話をホーム内に設置して利用してもらったり、ホームの近くにポストがあるため、手紙を投函したり、自由に行っている。		特に制限は設けていないので、自由に行っていただいている。 (その中で、家族への報告も忘れずに行っている)
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	特に制限を設けていないので、自由に行っていただける環境に努めている。		今後も利用者の家族や知人との交流を尊重し、継続して行っていきたい。
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束廃止委員会を設置しており、全職員が身体拘束を行わない、もしくは廃止に向けた活動とケアの実践に取り組んでいる。		定期的に勉強会を開催し、常に意識をもって業務に取り組んでいる。また、職員が日常的に話題にする事で、職員同士の確認や身体拘束とは何かを考え、利用者の尊厳を考えたケアの実践に繋がっている。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	玄関のみ防犯のため夜間は施錠しているが、日中は鍵をかけずに出入りが自由となっている。また、居室に鍵はついていないが、こちらから掛けることはない。		利用者や家族にあらかじめ説明し、了承を得ている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	職員は常に利用者の見えるところにおいて、利用者の把握に努めている。夜間は利用者のプライバシーを尊重し、2時間毎の見回りを行い、安全確認を行っている。		今後も職員同士の連携をうまくとりながら、利用者が事故無く生活ができるように配慮していきたい。
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	薬の管理は鍵のかかるキャビネットに保管しており、刃物や洗剤は利用者が不用意に手が届くところには置かない様に配慮している。		その時の状況に合わせて行動している。
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	事故防止対策委員会を設置し、事故を未然に防ぐ為の事例検討や話し合いを行っており、事故の防止に努めている。		事故防止対策委員を中心にして、事例検討を行い、利用者の日頃の事故の防止に努めている。
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	緊急時のマニュアルを作成しており、対応している。また、消防の救命講習を受けたり、勉強会を開いたりして、職員全員が緊急時の対応を速やかに行えるよう努めている。		研修係りを中心にして定期的に勉強会を行っている。また医療連携の担当看護師にもその都度聞くなどして、緊急時に備えている。
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	年に2回、災害等に備えて避難訓練を行っている。		防火管理者の有資格者がいるので、中心になって避難方法などの勉強会を行っている。
72 リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	入居時に入居窓口担当者から、十分な説明をしている。また、日々の暮らしのなかで問題を発見した時や、気になった時は速やかに管理者から家族へ報告・相談を行っている。		起きてしまった場合の対応等を事前に説明・話し合い、了承を得ている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	朝・夕に申し送りをを行い、日勤者と夜勤者、各ユニットの勤務者と情報を共有し、何かあった場合はお互いに協力するような態勢を作っている。		異常が起きた場合は、速やかに医療連携の看護師に連絡をし、指示をもらって対応するように努めている。
74 服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	処方箋を職員全員で確認し、利用者が何の薬を飲んでいるかを把握するように努めている。		変更があった場合は、記録や申し送りで情報を共有している。不明な点は、その都度医療連携の看護師に質問できる体制も整っている。
75 便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	安易に薬に頼らず、食事や水分補給・適度な運動で便秘予防を行っているが、改善が見られないときや利用者が辛さを訴えたときなどは、主治医や医療連携の看護師と連絡をとり、下剤の調節などを行っている。		今後も利用者の排便状況を確認しながら、その方にあったケアの提供を行っていく。
76 口腔内の清潔保持 口の中の汚れやおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	起床・就寝時、その他必要時にその都度口腔ケアを行っている。		義歯の手入れなど、その都度声がけし、時には洗浄のお手伝いを行って、清潔の保持に努めている。
77 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事や水分量はその都度記録し、個々に合わせた職員の提供を行っている。(お粥やキザミ食の提供、アレルギーへの配慮等)		職員が献立立案を行っており、料理の本や番組などを参考に、栄養が偏らないように工夫している。
78 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染予防マニュアルがあり、手洗いやうがいの励行を行っている。また実際に感染が起きた場合は、マニュアル通りに処理を行い、感染が広がらないようにしている。		感染症に対しての理解を深め、職員一人ひとりが拡大を防ぐよう心がけて行動している。



項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	<p>食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	<p>食品衛生管理者があり、衛生に関しての勉強会を行ったり、調理器具や食器の消毒、台所の清掃などを行い、食中毒が出ないように努めている。</p>		<p>季節に応じた対応をその都度行っている。また、検食を行っており、何かあったときの対応を行っている。</p>
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	<p>玄関周りに植物を置いたりして、家庭的な雰囲気を作っている。</p>		<p>今後も圧迫を感じさせない環境作りを心がけたい。</p>
81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>テレビやテーブルの配置を工夫したり、植物を置いたりしている。また正月飾りやクリスマスツリーなども飾って、季節感を感じていただけるように心がけている。</p>		<p>利用者と職員が協力して、住みやすく居心地が良い環境を提供できるように工夫していきたい。</p>
82	<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>居室のほか、ホールや多目的室・和室があり、好きな場所でくつろげるようになってい居る。</p>		<p>趣味の時間や家事作業等、思い思いの場所で過ごしていただくように配慮している。</p>
83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>入居前に家族や利用者で相談して、自宅で使用していた家具をそのまま持って来ていただくなどして、自宅にいるときと変わらない生活空間の提供を心がけている。</p>		<p>今後も利用者や家族の希望を取り入れて、居心地の良い環境作りを行っていきたい。</p>
84	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	<p>利用者にその都度お聞きしながら、空気の入替えを定期的に行っている。</p>		<p>冷暖房完備なので、季節に応じた空気の入替えを心がけている。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	各所に手すりが設けられており、全体にバリアフリー設計となっている。	利用者の身体状況をみながら、安全に過ごしていただく環境を作れるように努めている。
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	個々の能力にあった支援を行い、あくまでも利用者の生活のペースに合わせて、不安感を感じさせないように援助を行っている。	利用者の能力の把握に努め、本人のペースで生活ができるよう支援を行っている。
87	<p>建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	庭が整備されており、野菜作りやバーベキュー、日光浴が出来るようになっている。	近隣住民や、家族の交流の場として今後も活用していきたいと考えている。

サービスの成果に関する項目			
項目		取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんど掴んでいない	利用者の生活暦などを事前に把握し、そのままの生活を継続できるようにケアの統一を図っている。また、個々にあわせて対応し、その人らしい生活が送れるように支援している。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない	茶話会などを行い、職員も一緒にお茶を飲みながら会話を楽しんでいる。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんどいない	個々の生活のペースを崩さずに対応しているため、自由に過ごされている。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている	ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんどいない	利用者と職員が一緒の時間を共有し、個々にあったケアの提供を行っていることで、日々生き生きと過ごされるよう努めている。
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんどいない	外出・外泊の制限を設けていないため、自由に行っている。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんどいない	週1回の医療連携の体制が確保されており、体調の変化にも十分対応できる連絡体制が整っている。
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんどいない	利用者の希望に沿った支援を行い、安心した毎日を過ごしていただいている。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族 家族の2/3くらい 家族の1/3くらい ほとんどできていない	面会時などに、家族からの要望などをお聞きし、一緒に解決方法を考え対応している。

サービスの成果に関する項目			
項目		取り組みの成果	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない	様々な方が見学等に訪れており、その中で馴染みの関係が構築されてきており、定期的にかよわれるようになってきている。
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くない	徐々にグループホームに対する理解が得られてきており、協力体制も整えられている。
98	職員は、生き生きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない	理念を大切に、利用者第一に考えたケアの提供の意味を理解しており、お互いが気持ちよく働ける現場作りを目指して努力している。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	個々のペースに合わせたケアの提供を、これからも行っていきたい。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどいない	その都度家族からの要望にお答えできるよう努力しており、おおむね満足されていると思われる。(感謝の言葉などで)

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

あくまでも利用者の生活ペースに合わせたサービスの提供をおこなっている為、ほぼ自宅に近い生活の継続が維持されていると、家族から評価をいただいている。また、提携のグループホーム同士で情報交換を行い、互いの良い点を参考にしてサービスの質の向上に努めている。職員の異動や退職等もほぼなく、開所当時の職員がほぼいる為、継続したケアの提供が行われている。